
2011年 TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式 ～2011年1月5日(水)午前10時30分 TOKYO FMホール～

<代表取締役社長 富木田 道臣 挨拶>

21世紀に入り丁度 10年が経ち、世界は大きな閉塞感に包まれ、政治的にも経済的にも混沌としている中で、2011年の始まりであります。日本経済は「失われた20年」とよく言われますが、それからの脱却の過程において、更に不連続の変化が押し寄せてくるであろうことは予測できるものの、次の時代を読むことが困難な状況下にあります。

我々の業界もその縮図であります。手をこまねいては埋没するのみです。既存メディアは自己改革の徹底と時代の要請にチャレンジしなければなりません。いまだかつてない、変わり行く環境を乗り切るにあたっては、視野を拡げ、自分たちが慣れ親しんだ考え方、また、仕事の仕方から脱却するという決意が必要であります。柔軟に、その都度ゼロからのスタートを切れる心意気がなければなりません。

今年はいよいよ、マルチメディア放送にどのようなスタンスで参画するかを決断する年であります。当社は20年にわたりデジタル時代へ対応するための様々な試みをして参りました。マルチメディア放送への進出は私たちにとって生き残りをかけた最後のチャンスであり、命懸けで、かつ冷静な判断のもと、新たなメディアを創り上げていかなければなりません。

新たなメディアは一朝一夕に作り上げられるものではありません。メディアとして評価を得るには、過去の様々な事例から見ても10年という時間が必要です。この厳しい環境下で10年をかけて新しいメディアを創り出すための戦いがいよいよ始まります。

マルチメディア放送を成功させるには、生活者にとって利便性があり、かつ、心を豊かにするサービスを創り出せるか否かにかかってくるでしょう。コンテンツの企画制作能力を飛躍的に高めていかなければなりません。そのためには、コンテンツを生み出す雰囲気、仕組みについても新たな体制作りが必要です。当社が持ち得る資産を全て投入しても成功させる覚悟が必要です。中途半端では敗れ去って行くのみです。生活者のこころに感動を提供し、共感して選んで頂けるメディアだけが受け入れられ、生き残っていくのです。

総務省から間もなくマルチメディア放送の具体的な制度が発表される段階にあります。3セグメントの帯域を最大活用して、利便性のある多彩なサービスを実現し、心豊かな生活への誘いを提供できるメディアを創り上げたいと思います。

心豊かな生活へ誘うには、私たちが心豊かであらねばなりません。何かのせいにして、誰かのせいにするのではなく、自らが変わらなければならないのです。そして、お互いに認め合い、社内外に協働の輪を拡げ、大きな変革をもたらして行く事です。一人では何も出来ません。しかし一人の“あなた”が変わらなければ何も変わらないのです。過去の経験を乗り越え、自己改革をし、行動しようという強い意志を持った人々の連鎖が、大きなうねりを産み出し、大きな変革をもたらす、ゼロからのスタートを結実させるのであります。

10年がかりで新たなメディアを創り上げる上で、今どうしても必要なことは、経営の根幹である現在のFM放送を名実共にNo. 1ステーションに作り替えることであります。

この経済環境の厳しい折り、収益部門においては下期に入り画期的に業績を回復させてくれています。これまでの様々な努力により、若手を育て、現実の限界を飛び越えることが明日のTOKYO FMを創るという心意気を感じさせておられます。この心意気に大きな花を咲かすため、当社の活動に携わるあらゆる方々に強く意識して実践して欲しいことがあります。それは、聴取者から共感を得られるクリエイティブに徹底的に拘り、その結果としてレーティングNo. 1を獲得することです。リスナーのニーズを研究し、新たなニーズを生み出し、番組のクオリティを徹底追求して、その結果、番組聴取に可処分時間をより多く振り向ける価値があると感じてもらえるかどうかなのです。シンプルにこの基本を追求し、チェックと改善を重ねて欲しいのであります。一人一人が顧客満足を得るためのコンテンツ強化の一連の作業に、自分はこうしたいという目標を持ち、皆さん自らが誇れることを次々と実現させることにより、TOKYO FMを新たに創り変える事ができるのです。

最後になりますが、これからの10年は、アナログ放送をNo. 1にしつつ新しいメディアを創造する10年となります。明るい将来を見据え、夢を持って、自己改革とチャレンジに取り組んで下さい。自由闊達でクリエイティブでコンプライアンス重視の行動指針をベースに、皆さんの新しい時代へ向けたメディア創りに、楽しみながら取組んでいきましょう。